

○東シベリアの金産地

は三地方に別けられる。一はオホック地方でオホック町の附近にある。即チコリイ(Kolyma)山脉の南麓クツチユイ(Kuchui)及グシシカ(Gusiska)河域にある。一九一二年以來有名になつた。二はアヤン(Ajan)地方でオホック海の西岸オホタ(Ohtaa)からウダ(Uda)に亘りアルダン(Aldan)山脉の東側に當り其の中央にアヤン港がある。砂金は山中の河床にある。三はアルダン地方でアルダン川の大盆地オレクマ(Olekma)河の上流さに亘る。最近八年以來砂金熱が起つて良き砂金床が發見された、一番有望なのはこの地方である。

アルダン地方から南にスタノボイ山脉の南側アムール地方にも金産地がある、其の内セヤ(Seya)河流域のギリイ(Giri)河の支流フゲルガ(Hugerga)川で一九一七年に一金鐵脈が發見された。鐵脈は片麻岩とセレンサイト様の花崗片麻岩との間にあつて幅平均〇・七米、石英及方解石から出來てゐて黃鐵礦に富み毒砂を伴ふ酸化帯には自然金を見る。品位は平均一佛噸五十二瓦であるが良き部分では一乃至三瓦ある、流賊によつて採掘され既に千六百担の金を獲た。

○北樺太の油田 二月二十六日批准の通告交換を了つた日露修交條約に依つて我國は北樺太油田地の五割を操業するの

權利を獲た。油田は東海岸地方にあつて北中南の三部に區別することが出来る。北部にはオハ、エハヒ、中部にはヒリツワン、マトオ、チャイオ、南部にはヌイオ、ウイグレットク、カタンカリの各油田がある。大正八年以來久原、日石、實田、三菱、大倉、三井及鈴木の出資に係る北辰會が試掘を行つた、油井は上記八油田に亘り掘鑿されたが、現在採油して居るのは最北のオハのみで深度五十間乃至百五十間程度、油質はボーメ十九度である、オハには五千噸タンク三個、其他多數の小タンクが建設され採油した原油を貯藏してある。極寒地である爲め一年中五六箇月は操業がむづかしい。無線電信所はオハ及チャイオに設けられてある。

○波斯灣航路設定

今回一英國會社ストリツクラインは倫敦より波斯灣諸港に至る直接航路を開始せり、従前英印汽船航運會社に依て一週二回の往復ありしが、倫敦アシール間に五、六週間を要したるに、今後は倫敦より直通して二十五日にてアシールに達す、其寄港地は倫敦アントワープ、マルセイユ、ポードサイド、蘇士、バンダール、アツバス、アシール、モハムメライ及バスラに寄航し、歸りにはアシール倫敦間に唯ポートサイドに寄るのみ、獨逸アレーメンのハンザラインも亦之に負けざるやうに直接航路を開始しアントワープ及蘇士に寄港す其間四週乃至五週間なりと。

○比律賓の製糖業

一九一〇年即ち今より十三年前に始めて完全なる現代式分密機械の米國より輸入を見、原始的なり

し牛馬牽引乃至は發動機式裝置に代りて、以來急激なる進歩をなし、目下島内の現代式製糖工場は、甘蔗壓搾能力毎一日二千噸のものを筆頭とし、其數二十八箇所を數へ、就中ネグロス島最盛にして、十八箇所を有し呂宋島の八箇所並バナイ及ミンドロ兩島の各一箇所順次に並べり、此島は布哇と異り今尙甘蔗栽培地として開墾し得らるべき土地廣く島内に横はり居り、且又島内の各製糖工場の生産能率の如きも漸次増進しつゝある等の點より推して、相當有望と目せられ近き將來に布哇の製糖力に追及することも強ち難事には非るべしと唱導されつゝあり、生産品の大部分は分密糖として米本國市場へ差向られ隨て我國及支那を顧客とするマスコバ即ち赤糖は漸次減退しつゝある現狀にし、最近の産額は一九二三年に四、九六八、五六六擔、一九二四年に六、六六六、二一〇擔あり、赤糖も生産額約百万擔に達すといふ。

○加奈陀の楓糖

加奈陀の楓糖製造業は近代的産業に非ず、既に古くより之が製造に従事し、現に東部諸州の特種生産業として知らる、今其起源を尋ねるに往時暹米利加工人が鋏を以て樹木を伐り刻みたるに偶然樹傷より之に依り樺木皮製の皿に樹汁を流入せしめ、土製釜にて之を煮沸し製造し居たり、該方法は白人も之を用ひ約一世紀間に依りたるが後土製釜は之を廢して、金屬製器物を採用するに至れり、今日尙未だ比較的

古風の製法を襲用し居る地方あるも州式楓糖製造所に於ては製糖用に大槽蒸化器蓋附桶及重力管等の設備を爲せり、製糖時期は毎年三月中旬に始まり四月末に終る短期間なるが期節の最中

に於ては之に従事するもの約五万人に達す楓糖より汁液を採集するには先づ地上約三呎の樹皮下に深さ一時乃至二吋直徑約八分の三吋の小孔を設け、茲より噴出する汁液は之を汲桶に受くるものなるが、汁液は年々該樹の成長に依り生ずる新輪目より最多量に出来るさいへり、汁液の組成分子は蔗糖及水にして、含有糖分は普通一乃至四%なり正味生産一は糖密約三%を得べし、汁液を煮沸釜にて煮沸すれば糖密となる、つぎに蒸化精製して楓糖となる、獨特の香味ある芳香性あり、パンケーキ、ホテルプツチンク等の味付ソースに適す、ケベック、オランダリオ、ブランスウイツク、ノブスコチア等東部諸州を主産地とし、ケベック州最盛大なり、一九二一年の調査に依れば全國糖楓の生産樹數は二二、六二八、〇六〇日本にして之より製造せられたる同年度楓糖の總産萬九、六〇四、八五一封度なるが上記樹數中一九、二九二、五九三本楓糖の製産數量九、三七九、三三五封度は實にケベック州の生産なるに徴するも同州斯業の隆盛なるを窺知するに難からず。

○伊能忠敬の測量に關する御觸書

此度測量爲御

用天文方高橋作左衛門手附伊能勘解由井手傳勤方壹人下役三人内弟子三人常十一月廿五日(註文化八年)江戸出立東海道藤澤より尾州名護屋迄所々測量にて美濃路、中仙道通城州伏見院より山崎海道西宮通西國筋所々相測播州姫路より但州生野通豐岡出石丹州福知山綾部山家岡部篠山龜山通城州山崎迄測量いたし同所より無測量にて濃州太田迄罷越同所より測量相始薩府の積尤國々相廻り其所の様子にて最寄山々城下街道等も相測候間少々

宛前後にも可相成候右箇所にて諸事差支無之様可致候  
右の趣丹波國中へ可相觸もの也

別紙書附の趣可令承知候、那切に相觸候間村次不洩様願々相廻  
し寺社并に其村の庄屋年寄印形にて承知仕候致致清書留候村よ  
り京都御役所へ可持來もの也

末十二月

飛驒

和泉

丹波國桑田郡村々

寺社、庄屋、年寄

右の御觸書は北桑田郡田山村大庄屋村山氏萬覺記の中に手記さ  
れたものを先日披見したものである、「伊能忠敬」による同行  
の手傳以下七人は手傳坂部貞兵衛、下役永井甚左衛門今泉又兵  
衛、門谷清次郎、内弟子、尾形顯治、箱田良助、保木敬藏の七人入  
ある文化八年十一月廿七日藤澤より測量開始九年には九州に入  
り二年間彼地を測量したが十年七月には手傳坂部貞兵衛福江の  
客舎にて惜くも病死したが十月十一日には九州の測量を了り歸  
途中國を測量したそれで文中播州姫路より但州生野道云々とい  
るは文化十一年正月四日に至つて實行されたのである忠敬の  
一行が丹波福知山に入ったのは同月二十四日で二月二十二日八  
木につき忠敬は愛宕山を越え嵯峨に出で仁和寺邊まで測量して  
同月二十六日京都に到着した、同時に永井支隊が丹後や丹波の  
所々を實測したものである、この測量事業に關し官憲がいかに  
前以て手を盡くしてゐたか云ふ事の沙汰として同好の志に示  
めすことにした。(藤田)

雜 報

## 新刊紹介

○理科年表(第一回) 大正十四年 東京天文臺編

發賣所 丸善株式會社 定價壹圓五拾錢

頁數三一二、大サ一〇糶五×一五糶

本年表は一般理學の教育、研究及應用に便する爲め毎年發行  
せられるものの第一回のものであると云ふことである。之を一  
覽するに總ての物的理學(Physical Science)に關する重要なテ  
ィタを掲げてある。就中曆部、天文部、氣象部を主とし之に添ふ  
るに物理化學部、地學部及附録の各項目がある。其の細目に至  
つては總計二百項に近く、物的理學の倉庫とも云へる程豊富で  
ある。加之其のティタは最新の研究に成れる結果を採用してあ  
るから他の幾多のものを涉獵することを要せずして直に採つて  
調査、研究乃至は授業に用ふることが出来る、吾人地學者に取  
つては其の天文部氣象部が必要であると同時に最も重要なのは  
地學部である。此の部には地理、地質及礦物、地磁氣及重力、  
地震並に雜項の各項があり、細目六十あり、其の各目の斬新の  
ティタを取つたことは「主な海溝」の目の最深のものは昨年發見  
された豆南(日本)の九九五〇米餘であり、本邦の地質系統中に  
仙臺地質教室の發表採用する數島統等の新生代の漸名を擧げたり  
秩父層を石炭紀に止めたり其の新しきことは寧ろハイカラ地  
味である位である。新しき地學者が必ず座右に具へなければなら  
ぬ年表であることはこの一二例についてでも云ひうる。地球

四五

七三